

■松平信綱	老中、忍・川越藩主。将軍家光を支えて“知恵伊豆”といわれ、幼将軍家綱を補佐して幕政強化。
まつだいらのぶつな	
26聖人殉教・1596＝	徳川家康の代官だった大河内秀綱が関東移封に従って所領となった武蔵国高麗郡で、秀綱の子久綱の長男に生まれる。母は元北条家家臣深井好秀の女。幼名は亀千代。
	父は凡庸であったが、聡明な祖父と母方の勇敢な気質を受け継ぎ、
関ヶ原の戦 ・1600＝	4歳：
朱印船制始・1601＝	5歳：幕府に仕えたいと、長沢松平家を相続していた叔父松平正綱の養子となり、松平長四郎と称する。
阿国歌舞伎始1603＝	7歳：徳川秀忠付きの小姓に採用されるや、早速聡明ぶりを発揮し、
糸割符法始・1604＝	8歳：誕生した 徳川家光の小姓 として近侍。
徳川家康隠居1605＝	9歳：
家康駿府退隠 1607＝	11歳：
琉球使始・・	1610＝14歳：過労からか病気になる実家に戻って療養に努め、回復して復帰した後も、ほとんど熟睡することなく懸命に奉公、家光が鉄砲の稽古をしていた際、暴発して危うく命を落としそうになったのを救い、駿府城が火事になった時にも機転をきかせて城内の人々の身を守るなどして、家康からも目をかけられるようになり、
大坂冬の陣・1614＝	18歳：
徳川家康没 ・1616＝	20歳：
	・・・・・1618＝22歳：祖父秀綱が死去。この頃、のちに老中となる井上正就の女と結婚。以後、側室置かず、5男5女を儲ける。
支倉常長帰国1620＝	24歳：500石の土地を与えられ、信綱と改名。
元和大殉教・1622＝	26歳：家光が甲冑始めを行って、西の丸に移る頃から、家光の無理難題に巧みに応じる知患者ぶりを発揮、
徳川家光将軍 1623＝	27歳： *小姓組番頭で800石、家光上洛に供奉し、従五位下伊豆守に叙任。以後は松平伊豆守信綱となる。
イパニ断交・1624＝	28歳：2000石から、
寛永寺創建・1625＝	29歳：養父正綱も加増に次ぐ加増で石高2万2千石余となり、相模玉縄藩を立藩。
人身売買禁止1626＝	30歳：将軍家光が大御所秀忠と上洛するに当たり、養父とともに供奉して、
紫衣勅許無効1627＝	31歳：一気に 1万石 となり、 大名に列する。
・・・・・	1628＝32歳：老中職にあった岳父井上正就が殿中で豊島信満に刺殺される。
寛永禁書令・1630＝	34歳：1万5000石。
徳川秀忠没 ・1632＝	36歳： 老中並勤仕の命をうけ、阿部忠秋・堀田正盛らとともに、
鎖国令始・・	1633＝37歳： *六人衆(のちの若年寄) となり、 御数寄屋方支配。武蔵忍藩主3万石 となり、 老中に任じられる。
鎖国令Ⅱ・・	1634＝38歳：妻が病臥するなか、 将軍家光の上洛供奉し、従四位下に叙任され、
参勤交代始・1635＝	39歳：兼務小姓組番頭免除。 鎖国の強化や、
東照宮完成・1636＝	40歳：妻が病死して幼子たちを抱え、 江戸城の大改造が始まるなど多忙なところに、
島原の乱始・1637＝	41歳：台覧の能狂言。 島原の乱 が起き、追討使板倉重昌の苦戦に、第二追討使に指名され、戸田氏鉄と出立、
島原の乱終・1638＝	42歳： 原城総攻撃中に板倉重昌が戦死後到着し、才覚発揮して鎮圧し、帰府。その功績により、
鎖国令Ⅴ・・	1639＝43歳： 武蔵川越6万石に転じた。前年の川越大火で被災した城郭を修築拡張し、喜多院・仙波東照宮を再建、あわせて城下町の町割と門前制整備、復興資材を運ぶための新河岸舟運開設や荒川・入間川治水などを行い、
家光鎖国完成 1641＝	45歳：
寛永飢饉終・1643＝	47歳：後光明天皇即位祝賀使として上洛、侍従に進む。
・・・・・	1646＝50歳：実父が死去。
・・・・・	1647＝51歳：加増され7万5000石となる。
市中諸法度・1648＝	52歳：養父正綱が死去。玉縄藩相続を辞退し、正綱の次男隆綱に家督を譲る。
慶安御触書・1649＝	53歳： 川越藩での慶安総検地を実施、
御蔭参流行・1650＝	54歳：
徳川家光没 ・1651＝	55歳： *家光が死去、刈谷藩主松平定政が幕政を批判して出家した事件や由比正雪の乱(慶安事件)を処理し、阿部忠秋とともに幕閣の頂点に立ち、保科正之、井伊直孝、酒井忠勝とともに幼将軍家綱を補佐。
承応事件 ・・	1652＝56歳： 続いて牢人別木庄左衛門らによる幕府転覆計画発覚を鎮圧(承応事件)。合議の末、牢人対策定める。
野郎歌舞伎始1653＝	57歳：玉川上水開削決定するも、関東郡代伊奈忠治監督下の玉川兄弟の開削工事が失敗したため、
新利根川完成1654＝	58歳：総奉行として乗り出し、川越藩士で土木工事のプロ安松金右衛門を用い、川越の豪商榎本弥左衛門の協力を得て、初めからやり直し、ついに玉川上水の通水に成功すると、
・・・・・	1655＝59歳：川越藩民のために 野火止用水を開削、武蔵野開発と勸農政策などにより、藩政の確立にも大きく寄与。
明暦の大火 ・1657＝	61歳：明暦の大火(振袖火事)後の復興に努め、
朱舜水帰化 ・1659＝	63歳： 江戸城本丸の再建なる。保科正之の意見を入れて、天守閣は再建せず。
・・・・・	1660＝64歳：大坂城雷火破壊修復に大坂へ出張、京の御所に立寄り、東福門院和子に拝謁して帰府。佐倉藩主堀田正信が無断帰国し、良き先輩であった大老酒井忠勝が隠退するなか、
清帝国始 ・・	1661＝65歳： 病をおして登城し続けるが、
松平信綱没・1662＝	66歳： 没した。武蔵岩槻の平林寺(翌年、野火止に移転)に葬られた。